

〔曲 名〕El Matador

闘牛士

〔曲 種〕Walzer Caratteristico

特性的円舞曲

〔作曲者〕Calogero .Adolfo .Bracco (~~Carlo Alberto Bracco~~)

カロジェロ アドルフォ ブラッコ

〔編 曲〕Jiro Nakano

中野二郎

作者は 19 世紀中葉北部イタリアに生まれ、1903 年逝いたイタリアのマンドリニスト、ヴァイオリニスト、指揮者、作曲家。

彼はオルビエト市の管弦楽団、ジェノヴァのマンドリンギター合奏団の指揮者で、又チェルトーサのフィルハーモニックソサイエティやジェノヴァの歌劇合唱隊の指揮者ともなった。

1902 年トリノーのイル・マンドリーノ主催の第六回作曲コンクールに提出した作品「マンドリンの群」は見事入賞して金牌を贈られ、同年 7 月イル・マンドリーノ誌に発表されるや忽ち欧州の著名なマンドリン合奏団の主要を演奏曲目となり大成功を収めた。

本邦でも毎年各地で開かれるマンドリンの演奏会でこの曲の公演されない年はないほど行き亘っているが、詳細の経歴については殆んど知られず、本名もいづれの作品にも C.A.とのみより書かれていない。

マンドリンに関する作品で出版されたものは約 20 曲あるが、作品番号で判明しているものは 98 番まであり、無番号、未出版曲が相当あることが解る。

本曲「闘牛師」は 1904 年 5 月つまり作者の死後、ボローニアのイル・コンチェルト誌上に発表をみたものでヌペイン風のワルツ。

二長調に入ってからギターは拇指で打ち、繰返しの二回目は特にカスタネットとタンバリンのトレモロを静かに鳴らすよう指示がしてある。

尚 El Matador は闘牛師、騎馬の闘牛師を Picador と称する。

1971 年5月 12 日発行

イタリアマンドリン百曲選第 11 集より

---

〔注 釈〕

現在 C.A の内、A は Adolfo まで判明している

また生年、没年も

「1860 年頃北部イタリアに生まれ、1905 年 1 月 22 日にジェノヴァに逝いた」

と判明、記されている。

近年、インターネットの普及により、後にイタリアのマンドリン教授 ~~ハ.オルランディ~~ 教授の調べで ~~Carlo Alberto Bracco~~ が正しいということになった

---

2019 年 10 月同志社大学マンドリンクラブ OB の辻本篤人氏の尽力によりジェノヴァ(ブラッコの没地)在住のマンドリニスト、Carlo Aonzo 氏に直接コンタクトを取り、調査を依頼した結果、

“Calogero Adolfo Bracco” とそのフルネームが判明しました。

また彼の死亡証明証によると、

45 歳、出生地は Biella (Piedmont)、Genova, Piazza Gerolamo Savonarola n. 7 で 1905 年 1 月 22 日午前 8 時 30 分に逝去、

父は、Ignazio Domenico Bracco、

母は、Francesca Bianchina Zanotti、

配偶者は、Rosa Villa、であることが分かりました。

詳細はこのホームページ表紙に記載しております

---

El Matador

Calogero Adolfo Bracco (~~Carlo Alberto Bracco~~)

闘牛士

カロジェロ アドルフォ ブラッコ作曲

作者は 1860 年(頃)北部イタリアに生まれ、1905 年 1 月 22 日にジェノヴァに逝いたマンドリニスト、指揮者、作曲家。

1902 年トリノの定期刊行誌イル・マンドリーノ主催の作曲コンクールに入賞した「マンドリンの群れ」こそは画期的なもので、以来マンドリン音楽の至宝作品となり全国的に愛奏されている。

本曲闘牛士は死の前年 5 月ポローニャの斯楽誌イル・コンチェルトに発表されたスペイン風のワルツで、特にスペイン語の標題が付けてある。

闘牛士には騎馬のものもあり、これは El Picador と云われる。

二長調に入ってからギターは拇指で打つことが指示されているが作者の要求する奏法不明で単に強奏にとどめた。

猶反復の二回目は特にカスタネットとタンバリンのトレモロを静かに鳴らすよう指示があるがこれも省略してある。然しそうしたアクセサリ抜きでも、作者が指示した特性的ワルツは充分堪能できる。

追加資料

遺稿

中野二郎編著

「マンドリン ロマンの薫り」より